

東亜大学附属下関看護専門学校
学校長 榎田宏治 様

学 校 評 価

1. 教育課程

本校の教育理念は「人間尊重を基盤とした豊かな人間性を育み、社会に貢献できる看護職者の育成を目指す。」であり、教職員が一体となって人間教育の要諦をわきまえながら、自ら人間形成の手本となるよう自己研鑽を積みながら、学生指導やサポートに当たっている。定期的な相談業務の他、各自研究室を有して適宜面談を受け入れている。

教育目的は「看護に必要な知識・技術・態度を身につけ、社会に貢献できる人間性豊かな看護師を育成する。」であり、学生たちは真摯な姿勢で授業に臨んでいて、全体的に評価が高い。定時制ゆえ様々な環境下にある学生たちが集まり互いに刺激し合いながら、真剣に教員たちと向き合い学びを深めていく様子うかがえる。

教育目標は「1. 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解することができる。2. 看護に必要な知識・技術・態度を身につけ、科学的根拠に基づいた看護が実践できる。3. 看護者として自己成長できるための基盤を身につける。4. 倫理的判断に基づいた看護が実践できる。5. 保健・医療・福祉制度と役割を理解し、他のチームメンバーと協力できる基礎的能力を養う。」であり、教員それぞれが人間教育と実学教育の上記の一つひとつについて理解し、3年間をかけて具体的な習得目標を各授業において掲げながら、全体として体系的且つ高度な教育内容が実現できるよう努力している。また医師等外部講師の現場実践の教授を分担しながら補助し、自らの糧にもしている。

その他、教育課程の各分野の考え方を各自咀嚼し、年次進行につれ知識を深め、深い見識につながるよう学生を導いている。本校には大学院修了者や現場とのかかわりを継続している教員も一定割合いて、研究や実践を通じてより自らの専門性を深化させ刷新と拡張を漸進的に行いながら、教育に還元している様子もうかがえる。

2. 進路指導

学生は現在は2年次にあたり、様々な分野を個々に学びながら部分と全体の関係から有機的な連鎖関係を理解する時期である。看護の実践を想定しながらその基本を身につけて

いく時期でもある。教員は今後訪れる実習時期に向けて細やかな自己点検を促しながら分野の得手不得手を克服させようとしている。定期的に学習進捗が見える化しながら学生の課題意識や学習意欲を醸成している。学生には、2年後の新たなスタートについてイメージできるよう、しっかりとした土台作りを行ってほしいと期待する。

令和5年7月6日

学校法人東亜大学学園専務理事	河内昭弘
学校法人東亜大学学園理事	金田 晋
学校法人東亜大学学園理事	村田 悟
学校法人東亜大学学園理事	勝岡政彦